

平成 29 年度
体育センター長期研修研究報告

主体的な学びに向かう姿が生まれるダンスの授業

—自分の得意な動きを活かす表現活動を通して—



神奈川県立体育センター
長期研究員
神奈川県立鶴見養護学校 本波 和展

目次

第1章 研究を進めるにあたって

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究の目的	2
4	研究の仮説	2
5	研究の内容と方法	2
6	研究の構想図	3

第2章 理論の研究

	研究の背景	4
--	-------	---

第3章 検証授業

1	研究の仮説と検証方法	7
2	学習指導計画	9
3	学習指導の工夫	11
4	授業の実際	15
5	検証授業の結果と考察	30

第4章 研究のまとめ

1	研究の成果と課題	38
2	今後の展望	38

[引用・参考文献]

第1章 研究を進めるにあたって

1 研究主題

主体的な学びに向かう姿が生まれるダンスの授業
—自分の得意な動きを活かす表現活動を通して—

2 主題設定の理由

現行の特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）において「知的障害のある生徒の学習上の特性としては、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや、成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことなどが挙げられる」¹⁾ また、「学習活動への主体的な参加や経験の拡大を促していくことも大切である」¹⁾ とある。

鶴見養護学校（知的障害者部門）においても多くの生徒が、ルールや勝敗の結果、チームプレーにおける動きを理解することが難しく、活動に対し積極的に取り組む姿があまり見られなかった。しかし、昨年度のダンスの授業で取り入れた「決めポーズ」はそれぞれが得意そうに行っていた。これは「決めポーズ」を褒められることによって楽しさを味わい、積極的に取り組むことができた活動であったからと考えられる。また、教員に対する事前アンケートでは「生徒は体育のどのような場面で楽しさを感じているのか」の質問に対して「活動内容を理解し、活動に参加できたとき」「できたことを褒められたとき」という意見が多く集まった。

松原は、ダンス活動は、競争したり勝敗を争ったりすることがほとんど無く、他の人と異なった動きが尊重され、障害のある人にとって、楽しみながら、身体能力の向上、身体意識や動きの認識、コミュニケーション能力などを育成するためのよい機会を提供できる、と述べている。²⁾ また、大橋は、ダンスの動きは無限であり、どんなに小さな動きであっても、表現したい欲求と動きが結びついていれば、ダンスであると受け取ることができる、と述べている。³⁾

さらに、澤江は、知的障害・発達障害のある子供に対し、運動スキルを獲得するための運動学習の大原則のひとつは主体的に繰り返すことであり、そのためには「確実にできる」課題、もしくは「頑張ればできる」課題を用意することである、と述べ、⁴⁾ 丸山は、主体的な学びを促すために、教師は個々の課題に目を向けると同時に、そこから挑ませるべき共通課題を引き出す必要があり、その課題がグループやクラスで共有され、みんなで挑もうとなったときにはじめてコミュニケーションが生まれ合意形成がなされる、そのためには、学び取らせたい「内容」がしっかりしていなければならない、と述べている。⁵⁾ 主体的取組について安井は、その種目の内容が理解され、見通しがもてて初めて生まれる、と述べ、²⁾ 田村は、「対話的な学び」が行われることで、「主体的な学び」に向かう姿が生まれてくる、⁶⁾ と述べている。

そこで、本研究では自分の得意な動きを活かすことができるダンスを取り上げ、生徒が活動の内容を理解し、見通しをもつことができ、確実にできる、頑張ればできると感じるような共通課題を設定する。仲間と協力をしてこの課題を解決するために、言葉による対話や、うなずき、指差し、首振りなどによる無言の意志の伝達、お互いに力をかけたり、受けたりするなどの感覚の交流を通して対話的な学びを促すことによって、考えている姿、判断している姿、行動している姿といった主体的な学びに向かう姿が生まれると考え、本主題を設定した。

3 研究の目的

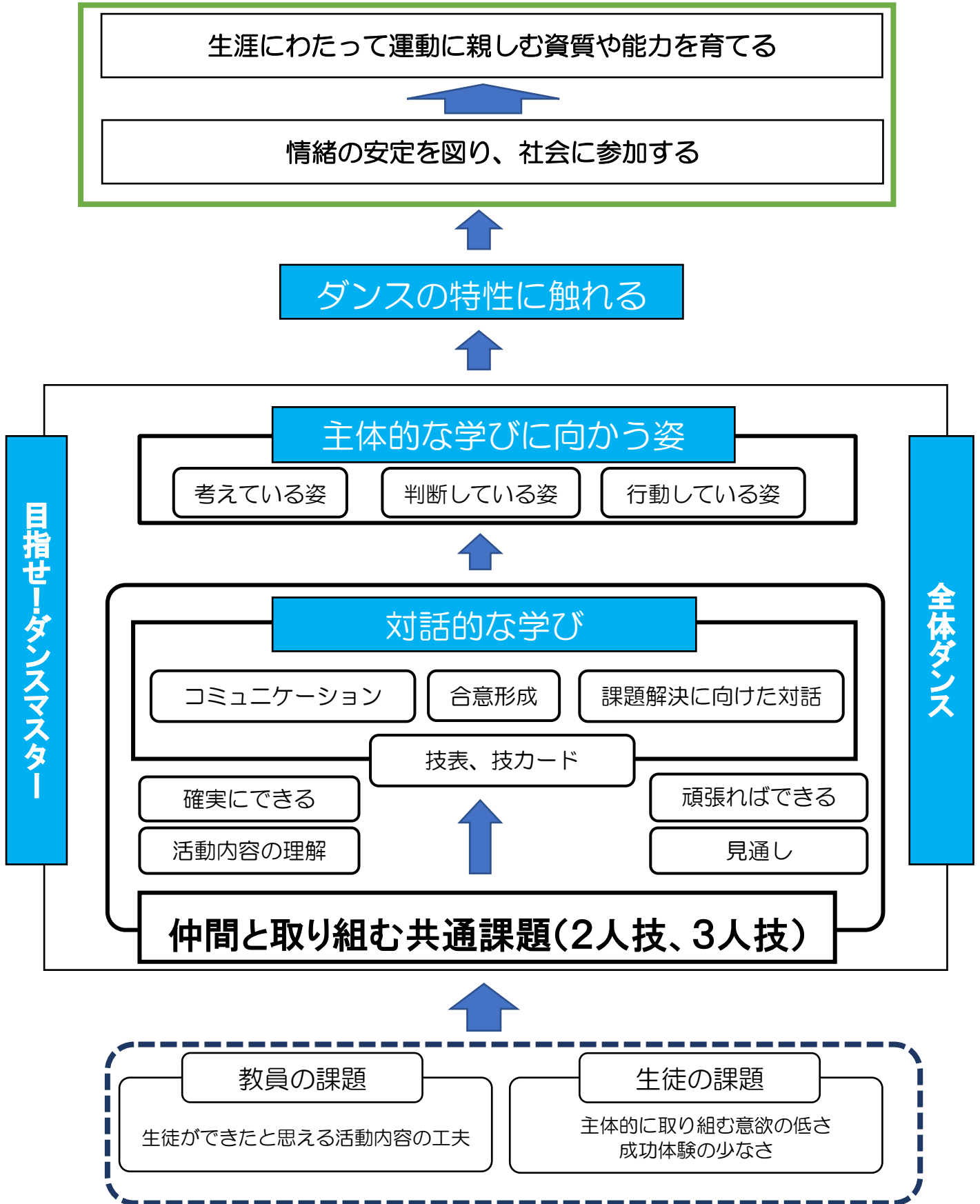
ダンスの作品創りにおいて、仲間と取り組む共通課題を設定し、課題解決に向けた対話的な学びを促すことによって、主体的な学びに向かう姿が生まれる授業を提案する。

4 研究の仮説

ダンスの作品創りにおいて、仲間と取り組む共通課題を設定し、課題解決に向けた対話的な学びを促すことによって、主体的な学びに向かう姿が生まれるであろう。

5 研究の内容と方法

- (1) 授業実践に先立ち、文献等により理論研究を行う。
- (2) 理論研究を基にした指導計画により授業実践を行い、仮説の検証を行う。
- (3) 理論研究と授業実践を基に研究をまとめ、学習過程と指導方法を提案する。



第2章 理論の研究

研究の背景

(1) 特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）における知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校における指導の特徴について（一部抜粋）

○知的障害のある生徒の学習上の特性等

学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや、成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことなどが挙げられる。また、実際的な生活経験が不足しがちであることから、实际的・具体的な内容の指導が必要であり、抽象的な内容の指導よりも効果的である。（中略）

さらに、教材・教具や補助用具を含めた学習環境の効果的な設定をはじめとして、生徒へのかかわり方の一貫性や継続性の確保、在籍する生徒に関する周囲の理解などの環境条件も整え、知的障害のある生徒の学習活動への主体的な参加や経験の拡大を促していくことも大切である。¹⁾

(2) 学習指導要領上のダンスの内容

「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）第2編 第2部 第5章 第3節 高等部の各教科 第7保健体育」で、「ダンスの指導では、動きを創作し、自由に伸び伸びと踊ったり、ダンスを鑑賞したりして、自己表現する能力や態度を育てることが大切である。」と示されている。¹⁾

(3) 障害者とダンス

松原は、ダンス活動は、競争したり勝敗を争ったりすることがほとんど無く、厳密なルールや高度な技能も必要とせず、他の人と異なった動きや、表現が尊重され、障害のある人にとって、楽しみながら、身体能力の向上、身体意識や動きの認識、社会性、コミュニケーション能力、情緒などを育成するためのよい機会を提供できる、と述べている。²⁾

大橋は、「ダンスの動きは無限であり、どんなに小さな、例えば指先だけのわずかな動きであっても、表現したい欲求と動きが結びついていれば、ダンスであると受け取ることができる。」³⁾と述べている。

松本は、発達障害のある子どもの多くは、準備体操やラジオ体操が上手にできない、しっかり腕を伸ばすことができず、やる気がないように見えたり、首や腰をねじる動きが分からなかったり、重心移動がうまくできずにふらついてだらしく見えたりする、彼らは一生懸命やろうとしているが、体のイメージが乏しく、自分の姿勢がどうなっているのか、身体のどの部分をどう動かせばみんなと同じ動きになるのかが分からない状態にあると考えられる、と述べている。⁷⁾

そこで本研究では、生徒が自分の得意な動きを活かし、多くの成功経験が得られるようダンスを取り上げることにした。

(4) 主体的な学びを促すための課題設定

澤江は、運動学習の大原則のひとつは主体的に繰り返すことであり、主体的に子供たちが繰り返すようにするためには、「確実にできる」課題、もしくは「頑張ればできる」課題を用意することである、と述べている。⁴⁾

丸山は、子供たちは、それぞれ個々に課題を抱えている、教師は個々の課題に目を向けると同時に、そこから挑ませるべき共通課題を引き出す必要がある、その課題がグループやクラスで共有され、みんなで挑もうとなったときにはじめて、「どうすればうまくいだろうか」「できるようになるのだろうか」とコミュニケーションが生まれ合意形成がなされていく、そのためには、学び取らせたい「内容」がしっかりしていなければならない、子供たちが右往左往するのを認めながら、分かったりできたりするようになっていくプロセスをサポートしていく必要がある、と述べている。⁵⁾

そこで本研究では、主体的な学びを促すために、生徒が確実にできる、頑張ればできる仲間と取り組む共通課題を設定することとした。

(5) 主体的・対話的な学び

安井は、自主性、主体的取組は、その種目の内容が理解され、見通しがもてて初めて生まれるものである、と述べている。²⁾

田村は、「対話的な学び」が行われることで、「主体的な学び」に向かう姿が生まれてくる、と述べている。⁶⁾

多田は、言葉による対話だけでなく、感覚の交流、無言の意思の伝達も有効な「対話」と捉えている、他者と伝え合い、通じ合い、響き合うことは、言葉のみでなく、いかなる方法であっても「対話」とする、と述べている。⁷⁾

そこで、本研究では言葉による対話、相手の手を握り持ち上げたり、足の裏を合わせて互いに力をかけ合うなどの感覚の交流、うなずき、指差し、首振りなどによる無言の意思の伝達を対話と見取ることとした。

表1 対話の定義⁷⁾

言葉	感覚の交流	無言の意思の伝達
----	-------	----------

竹林地は「主体的な学習をしている児童生徒の姿」として「考えている(迷っている)」「判断している(決めている)」「行動している」がある、と述べている。⁸⁾

そこで本研究では、主体的な学びに向かう姿を、「考えている姿(迷っている姿)」「判断している姿(決めている姿)」「行動している姿」と定義付けることとする。

表2 主体的な学びに向かう姿⁸⁾

考えている姿 (迷っている姿)	判断している姿 (決めている姿)	行動している姿
--------------------	---------------------	---------

(6) 対話的な学びの評価

ア 見るための尺度＝評価規準をもつこと

「この授業で子どもたちにこうなってほしい」というイメージがあれば、目の前の子供の状況が十分かどうかが見えるようになる。⁶⁾

イ 時間軸でつなぐ

「昨日はあんな発言だったけど、今日はこんな発言に変わった」「先週取り組んでいた活動が、今日の授業でこうしている」などの時間軸で捉えると、その子の思考の経過や気持ちの変化、学びへの意欲を見ることができる。⁶⁾

ウ 空間軸でつなぐ

授業中には、色々な現れがある。発言、ノート、絵、表情、身体の動かし方など、それらを関連付けると、その子の考えが見られる。⁶⁾

これまで述べてきた理論に基づき、検証授業を進めることとする。

第3章 検証授業

1 研究の仮説と検証方法

(1) 研究の仮説

ダンスの作品創りにおいて、仲間と取り組む共通課題を設定し、課題解決に向けた対話的な学びを促すことによって、主体的な学びに向かう姿が生まれるであろう。

(2) 期間

平成 29 年 9 月 5 日（火）～10 月 5 日（木）

(3) 場所

神奈川県立鶴見養護学校体育館

(4) 対象

高等部 2 学年（35 名）

(5) 単元名

いろいろなスポーツ「ダンス」

(6) 検証の方法

ア 文献研究

イ 仮説の設定

ウ 単元学習計画立案

エ 事前アンケート 7 月 10 日（月）～7 月 14 日（金）実施

オ 授業実践

カ 事後アンケート 11 月 1 日（水）実施

キ 仮説の研修を中心とした結果の分析・考察

(7) 分析の視点と方法

分析の視点	分析の観点	分析の方法	
		学習活動	手がかり
(1) 対話的な学びを促すことができたか	ア 技表、技カードが、仲間と対話を行う手立てとして有効であったか イ 課題解決に向けて仲間と対話ができただか	・目指せ！ダンスマスター ・全体ダンス	・映像分析 ・学習カード ・見取り表
(2) 主体的な学びに向かう姿が生まれたか	ア 考えている姿、判断している姿、行動している姿が生まれたか		

2 学習指導計画

(1) 生徒の実態把握

ア 生徒に交付されている療育手帳から見た生徒の障害程度別人数

図1は生徒に交付されている療育手帳に基づいて、鶴見養護学校高等部2学年の生徒（35名）の障害程度別の人数を示したものである。A1（最重度）が15名、A2（重度）が9名、B1（中度）が6名、B2（軽度）が5名となった。

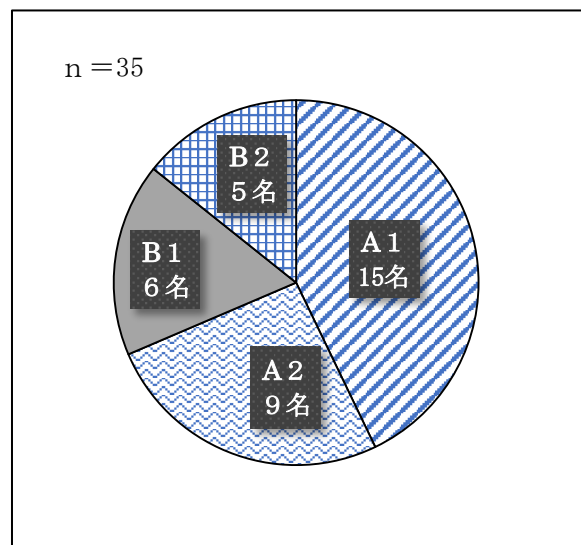


図1 障害程度別の人数

(2) 単元の見直し

ア ダンス

(ア) 1段階

ダンスの運動をする。

(イ) 2段階

ダンスの運動を通して、体力や技能を高める。

イ きまり

(ア) 1段階

きまりやルールなどを守り、友達と協力して安全に運動をする。

(イ) 2段階

きまりやルールなどを守り、友達と協力し、進んで安全に運動をする。

ウ 保健

(ア) 1段階

心身の発育・発達に関心を持ち、生活に必要な健康・安全に関する事柄を理解する。

(イ) 2段階

心身の発育・発達に応じた適切な行動や生活に必要な健康・安全に関する事柄の理解を深める。

3 学習指導の工夫

(1) 「目指せ！ダンスマスター」


表3は技表、技カードについて示したものである。

表3 技表、技カードについて

技表	技の完成を写真4枚で提示し、技を選択するために使用する。 ☆の数は技への取組の難易度を示している。
技カード	活動の内容の理解と見通しをもたせることをねらいとしている。 表には完成した技の写真、裏には技の完成までの手順を、写真で示している。

本研究では、対話的な学びの充実を図るために、「目指せ！ダンスマスター」と銘打った共通の課題（2人技、3人技）を設定した。生徒は、技表（表4）の中から、自分達で取り組む技を選び挑戦していく。

表4 技表

2人技①	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ジャンプ ☆☆ </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <small>くうき</small> 空気いす ☆☆☆ </div> 
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ロケット ☆☆ </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> やま ☆☆ </div> 

2人技②

ダブリュー ☆☆☆



いほ家 ☆☆☆



バランス ☆☆



ておしぐるま ☆☆



3人技

いほV字 ☆☆



こえのものさし ☆



ソファー ☆☆



つる鶴 ☆☆☆



選んだ技カード（表5）を基に技の完成を目指す。「仲間と一緒に取り組みたい技を選ぶ」「どうすればその技を完成させられるか」を仲間同士で対話し、課題解決することをねらいとする。

表5 技カード

技カード表	技カード裏
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>ロケット ☆☆</p>  </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>①</p>  </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="text-align: center;"> <p>②</p>  </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>かんせい 完成</p>  </div> </div>

技表、技カードに示されている技を基に、自分達の得意な動きで技の完成を目指す。

（2）言語合図

表6は言語合図の活動の場面と内容及び、合図の内容について示したものである。そこで本研究では、取り組む内容、取り組むために決められた時間、技を完成させるタイミングを言葉による合図とした。



表6 言語合図

活動の場面と内容	合図の内容
取り組む内容	「2人技！そーれ」と言ってから技に取り組む。
技を完成させるタイミング	「せーの！はーい！」で技を完成させる。
取り組むために決められた時間	8呼間を声に出して数える。

(3) 視覚化を図った教具の工夫

表7は視覚化した教具の工夫をまとめたものである。

表7 視覚化した教具の工夫

教具	工夫
ダンスの内容動画	ダンスの活動内容を言葉、数字、イラストで提示したものを大型テレビに映し、場面ごとに変化する動画で提示した。
活動位置の提示	生徒が自分の活動する場所が分かるように、体育館の床にクラスごとに二色のラインテープを引いて、目印とした。 
大型テレビ タブレット	大型テレビにタブレットを接続し、本時の目標の確認や、ダンスマスターの行い方について説明を行った。 

(4) グループ編成について

グループの中で心を開いて動けるよう、同じクラスでグループを編成することとした。

(5) 指導内容の共通理解

鶴見養護学校高等部第2学年では、体育の授業を16名の教員で指導を行っている。教員一人一人が指導内容と指導方法を理解して授業に臨むことができるようにするため、前もって授業案を配付し、さらに当日、授業のねらいや注意点を確認した。

4 授業の実際

高等部2年体育科授業案

【本時の展開】(1/15時間) 9月5日(火)

- (1) 本時のねらい
リズムに乗って体を動かす楽しさを味わう。
- (2) 研究との関連
確実にできる課題に取り組む。
- (3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て
はじめ 5分	<ol style="list-style-type: none"> 1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 オリエンテーション ○「単元の活動内容」を知る。 ○「楽しい雰囲気で活動する」「笑顔で取り組む」「友達 のよいところを見付ける」の確認をする。 3 準備運動 ○その場でジャンプする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。
なか 20分	<ol style="list-style-type: none"> 4 「手拍子」→「グーパー」 ○「手拍子」の練習を行う。(8カウント) ○「グーパー」の練習を行う。 ○「手拍子」→「グーパー」をカウントで行う。 ○「手拍子」→「グーパー」を音楽で行う。 ○ペアの確認をする。 ○相手と向かい合って「手拍子」→「グーパー」をカウントで行う。 ○相手と向かい合って「手拍子」→「グーパー」を音楽で行う。 5 回転 ○ペアで手をつなぎ回転→反対回りをカウントで行う。 ○ペアで手をつなぎ回転→反対回りを音楽で行う。 6 全体ダンス①(手拍子→回転) ○イントロから回転までカウントで行う。 ○イントロから回転まで音楽で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてるように8カウントで行う事を伝える。 ・体を小さくし、大きく広げることを意識させる。 ・動きに声をつけて説明する。 ・あらかじめペアを決めておく。 ・「グーパー」のペアでそのまま活動させる。 ・混乱しないように、絵カードなどで内容を提示する。
まとめ 5分	<ol style="list-style-type: none"> 7 本時のまとめと次時の確認 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。

【授業者による振り返り】

単元の1時間目ということもあり、導入としてダンスの主な活動内容、流れ、また、学習発表会で発表することを目標とすることを伝えた。ダンスに対し苦手意識をもたず、「自分もできる」「この動きで大丈夫」と自信をもってできる活動を多く取り入れた。初めての活動であったが混乱する様子はなく、ほぼ全員の生徒が活動に取り組むことができた。

【研究の視点からの振り返り】

生徒全員が取り組める課題を設定しダンスを行った。ほとんどの生徒が取り組むことができ、繰り返し行う事ができた。

高等部 2 年体育科授業案

【本時の展開】(2/15 時間) 9月6日(水)

- (1) 本時のねらい
リズムに乗って体を動かす楽しさを味わう。
ダンスリーダーの合図で立ち上がる。
- (2) 研究との関連
共通の課題に取り組む。
- (3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て									
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 ○立ち位置の確認をする。 ○「楽しい雰囲気で活動する」「笑顔で取り組む」「友達 のよいところを見付ける」の確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <table style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="border: none; padding: 5px;">ス テ ー ジ</td> <td style="border: none; padding: 5px;">C組</td> <td style="border: none; padding: 5px;">B組</td> </tr> <tr> <td style="border: none; padding: 5px;"></td> <td style="border: none; padding: 5px;">D組</td> <td style="border: none; padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none; padding: 5px;"></td> <td style="border: none; padding: 5px;">A組</td> <td style="border: none; padding: 5px;"></td> </tr> </table> </div> 3 準備運動 ○その場でジャンプする。	ス テ ー ジ	C組	B組		D組			A組		・ピブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大 型テレビに提示する。 ・ぶつかからないように間隔を広げてから行う。
ス テ ー ジ	C組	B組									
	D組										
	A組										
なか 20分	4 前回の確認 (全体ダンス①) 5 立ち上がり ○音楽に合わせてクラスごとにダンスリーダーの合図で 立ち上がる。 ○全体で音楽をかけて行う。 6 全体ダンス② (立ち上がり→手拍子→回転) ○立ち上がりから回転まで通しをカウント行う。 ○立ち上がりから回転まで通しを音楽で行う。 7 クラスごと発表 ○その場で行い、お互いに見えるよう向きを変える。	・前回のダンスを思い出し、スムーズに活動できるよ う丁寧に振り返えさせる。 ・事前にクラス1名ダンスリーダーを決めておく。 ・混乱しないように、絵カードなどで内容を提示する。									
まと め 5分	8 本時のまとめと次時の確認 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	・健康観察を行う。									

【授業者による振り返り】

クラスで旗を持つ役割を1人設け、旗を上げる合図で立ち上がる活動を行った。旗を上げる人を固定せず、全員が旗を上げる経験をする中で、役割を果たそうとする意識やクラスの仲間を意識することをねらいとした。旗をしっかりとメリハリをつけて上げたり、旗を上げて「できた」と感じたのか、嬉しそうな表情が見られたり、旗を意識して立ち上がった生徒がいた一方で、旗を意識できず立ち上がれなかったり、しゃがんだ姿勢からでないで立ち上がることに時間を必要とする生徒がいるなど、全員が「できた！」とは感じられなかった。

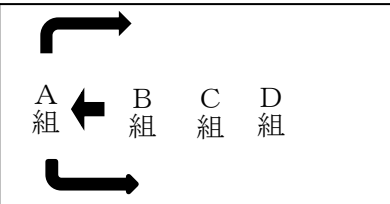
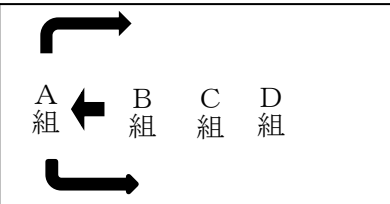
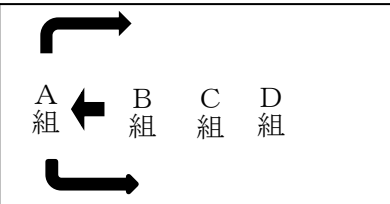
【研究の視点からの振り返り】

「旗の合図に合わせて立ち上がる」という一つの目標にクラス全員で挑むことで、仲間に指示を出したり、指示を受け仲間の合図に合わせて立ち上がろうとして課題解決に向け対話を行えた。

高等部2年体育科授業案

【本時の展開】(3/15時間) 9月7日(木)

- (1) 本時のねらい
自分の決めポーズを思い出し、発展させる。
顔を上げて正面を向く。
- (2) 研究との関連
共通の課題に取り組む。
- (3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て		
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 ○「楽しい雰囲気で活動する」「笑顔で取り組む」「友達 のよいところを見付ける」の確認をする。 3 準備運動 ○その場でジャンプする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。 		
なか 50分	4 決めポーズ ○得意な生徒が手本をする。 ○クラスごとに1人ずつ決めポーズを確認する。 ○新しい決めポーズの練習をする。 -休憩(5分)- ○クラスごとに発表をする。 5 エンディング <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ス テ ー ジ</td> <td style="padding: 5px; text-align: center;">  </td> </tr> </table> </div> ○動きの確認をする。 ○音楽をかけて全体練習を行う。 -休憩(5分)- 6 5の映像を確認する。	ス テ ー ジ		<ul style="list-style-type: none"> ・教師が事前に新しい決めポーズを考えておく。 ・決めポーズが得意な2名を選出する。 ・昨年度取り組んだ決めポーズを確認する。 ・決めポーズを基に新たな動きを付け加える。 ・生徒が取り組みそうな動きを考えておく。 ・生徒の状況を把握する。 ・お互いに見えるよう向きを変え、その場で行わせる。 ・クラスごと横1列で決めポーズを行わせる。 ・生徒の状況を把握する。 ・タブレットにエンディングを映し、活動を確認させる。
ス テ ー ジ				
まとめ 5分	7 本時のまとめと次時の確認 ○本日のベストダンサーの紹介をする。 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。 		

【授業者による振り返り】

昨年度行った「決めポーズ！」を確認し、さらにアレンジする内容とした。「○○さんの～」と昨年度行ったリズムと言葉を聞くと、多くの生徒がポーズを決めることができ、さらにターンを入れたり違うポーズに取り組んだりアレンジする様子が見られた。次回から複数でポーズを決める活動に入るにあたり、よい流れで1週間取り組めたと思う。

【研究の視点からの振り返り】

仲間とタイミングを合わせて決めポーズを完成させたことが、次回から行う「目指せ！ダンスマスター」に向け、「仲間と技を完成させる」「仲間とタイミングを合わせる」ための意識付けになった。

高等部2年体育科授業案

【本時の展開】(4/15時間) 9月12日(火)

- (1) 本時のねらい
技が完成したら「せーの！はい！」のかけ声で顔を上げ、正面を向く。
対話をしながら活動に取り組み、仲間と学び合う楽しさを味わう。
- (2) 研究との関連
技表、技カードを使い、活動内容の理解と見通しをもつ。
対話をしながら活動に取り組む。

(3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て									
はじめ 5分	<p>1 集合・整列・挨拶・出席確認</p> <p>2 本時の説明</p> <p>○立ち位置の確認をする。</p> <p>○「楽しい雰囲気で活動する」「笑顔で取り組む」「友達 のよいところを見付ける」の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <table style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ス テ ー ジ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">C組</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">B組</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">D組</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">A組</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> </tr> </table> </div> <p>3 準備運動</p> <p>○その場でジャンプする。</p>	ス テ ー ジ	C組	B組		D組			A組		<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。
ス テ ー ジ	C組	B組									
	D組										
	A組										
なか 20分	<p>4 目指せ！ダンスマスター 2人技</p> <p>○説明を聞く。</p> <p>○グループごとに活動を開始する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が2名前に出て手本を見せる。技が完成したら「せーの！はい！」のかけ声で正面を向くことを伝える。 ・技表から選び、できたらシールを貼ることを伝える。 									
まとめ 5分	<p>5 本時のまとめと次時の確認</p> <p>○本日のベストダンサーの紹介をする。</p> <p>○本時のまとめ。</p> <p>○次時からの内容を確認する。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。 									

【授業者による振り返り】

技を完成させようと意欲的な姿が多く見られた。今後は技を完成させるための要点を細かく伝えて指導していきたいと感じた。

【研究の視点からの振り返り】

初めての活動だったが、内容を理解し取り組むことができていた。技表を仲間と見ながら、どの技に取り組むかを相談したり、友達にどれがよいか聞いて、それに対して指をさして答えたり、自分の足の裏と相手の足の裏をしっかりと合わせて足を上げようとする姿など、意欲的に活動に取り組む姿が多く見られた。

高等部2年体育科授業案

【本時の展開】（5／15時間） 9月14日（木）

- (1) 本時のねらい
 技が完成したら「せーの！はい！」のかけ声で顔を上げ、正面を向く。
 相手の様子を確認する言葉をかける。
 対話をしながら活動に取り組み、仲間と学び合う楽しさを味わう。
- (2) 研究との関連
 技表、技カードを使い、活動内容の理解と見通しをもつ。
 課題解決に向けて対話を行う。
 言語合図で技を完成させるタイミングを意識し、見通しをもつ。
- (3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て						
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 立ち位置の確認 3 準備運動 ○その場でジャンプする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ピブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。 						
なか 20分	4 目指せ！ダンスマスター 2人技 ○内容の確認をする。 ○1組が手本で発表する。 ○グループごとに活動を開始する。 <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">ス テ ー ジ</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">A組</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">C組</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">B組</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">D組</td> </tr> </table> ○笛の合図でタイミングを合わせ、2人技を行う。	ス テ ー ジ	A組	C組		B組	D組	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が2名前に出て手本を見せる。 ・技が完成したら「せーの！はい！」のかけ声で正面を向くことを伝える。 ・技表から選び、できたらシールを貼ることを伝える。
ス テ ー ジ	A組	C組						
	B組	D組						
まとめ 5分	5 本時のまとめと次時の確認 ○本日のベストダンサーの紹介をする。 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。 						

【授業者による振り返り】

「相手の様子を確認する言葉をかける」というねらいは、曖昧で難しかったと感じた。言葉を具体化した方がよかった。「せーの！はい！」のかけ声で正面を向くのは分かりやすく、少しずつ定着しつつある。「8秒間で技を完成させる」では、初めてなので笛の合図を意識することに重点を置き、あえて秒数を数えないで取り組んだが、逆に混乱させてしまったので、決まったフレーズで取り組めるように工夫したい。

【研究の視点からの振り返り】

4時間目に比べて技の完成に向けて対話の数が増えてきた。かけ声のタイミングに合わせて2人技をほぼ全員の生徒が完成させられ、対話をしながら技に取り組むことができた。

高等部2年体育科授業案

【本時の展開】(6/15時間) 9月14日(木)

- (1) 本時のねらい
 技が完成したら「せーの！はい！」のかけ声で顔を上げ、正面を向く。
 相手の様子を確認する言葉かけをする。
 対話をしながら活動に取り組み、仲間と学び合う楽しさを味わう。
- (2) 研究との関連
 課題解決に向けて対話を行う。
 言語合図で技を完成させるタイミングを意識し、見通しをもつ。

(3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 立ち位置の確認 3 準備運動 ○その場でジャンプする。	・ピブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。
なか 50分	4 目指せ！ダンスマスター 2人技 ○最後に笛の合図に合わせ、全員で取り組む。 —休憩(5分間)— 5 目指せ！ダンスマスター 2人技 発表(クラスごと) ○お互いに見えるよう向きを変え、その場で笛の合図で取り組む。 6 音楽に合わせて、目指せ！ダンスマスター 2人技 ○音楽のタイミングに合わせて2人技に取り組む。 7 全体ダンス④(立ち上がり→手拍子→回転→2人技) ○カウントで行う。 —休憩(5分間)— 8 7の映像を確認する。	・この後、発表することを意識させ活動に取り組みさせる。 ・8秒間で技を完成させられるよう指導する。 ・生徒の状況を把握する。 ・混乱しないよう、絵カードなどで次の内容を提示する。 ・生徒の状況を把握する。 ・タブレットで確認させる。
まとめ 5分	9 本時のまとめと次時の確認 ○本日のベストダンサーの紹介をする。 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	・健康観察を行う。

【授業者による振り返り】

2人技の取組は、仲間との対話が多く見られ、技を完成させることに意欲を持って取り組んでいた。8秒間で技を完成させることを理解し、取り組んでいたが、音楽に合わせて行くと、どのタイミングで技に取り組み始めればよいかが上手く伝えられず、スムーズに取り組めなかった。分かりやすく視覚的に伝える方法を考える必要がある。

【研究の視点からの振り返り】

ペアにより変動はあるものの、4時間目に比べ仲間とタイミングを合わせるために、「せーの」のかけ声をかけられるようになった生徒が増えた。それに伴い、技に取り組む回数も増えた。

高等部 2 年体育科授業案

【本時の展開】（7/15 時間） 9 月 26 日（火）

- (1) 本時のねらい
 今までのダンスの動きや変更点を理解する。
 決まったら「せーの！はい！」のかけ声で顔を上げ、正面を向く。
- (2) 研究との関連
 課題解決に向けて対話を行う。
 言語合図で技を完成させるタイミングを意識し、見通しをもつ。
- (3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て										
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ジャンプ ○タッチ（ペアになる相手とハイタッチ） ○回転（ペアになる相手と両手をつなぎ回転）	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。 										
なか 20分	4 全体ダンス①（手拍子→回転） ○ステージに向かってクラスごと横2列に並ぶ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ステージ</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%; height: 40px;">■ A組</td> <td style="width: 20%; height: 40px;">■ C組</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="height: 40px;">■ B組</td> <td></td> <td style="height: 40px;">■ D組</td> <td></td> </tr> </table> </div> ○カウントで行う。 ○動画で行う。 5 2人技の確認 ○かけ声の練習をする。 ○カウントで行う。 6 全体ダンス③（手拍子→回転→2人技）	ステージ		■ A組	■ C組			■ B組		■ D組		<ul style="list-style-type: none"> ・前回のダンスを思い出し、スムーズに活動できるよう丁寧に振り返えさせる。 ・変更点（速い拍手は2回、回転は逆回りなし）を丁寧に伝え、ゆっくり確認する。 ・「2人技！」「そーれ！」のかけ声を確認する。 ・実際に2人技を完成させ、確認する。 ・かけ声の「せーの！はい！」に笛が鳴ることを伝える。 ・2回行う事を伝える。
ステージ		■ A組	■ C組									
	■ B組		■ D組									
まとめ 5分	7 本時のまとめと次時の確認 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。 										

【授業者による振り返り】

準備運動に回転、タッチを加えた。2人技を行う前に、相手との調子の確認や仲間と体を動かすことでスムーズに活動に入れるようにというねらいで取り組んだ。混乱なく取り組み、よい流れで2人技に取り組んでいた。また、ダンスの流れを動画にし、テレビに映し出すことで技の取組がスムーズに行えた。行事の関係で1週間空いての授業だったがよく取り組んでいた。

【研究の視点からの振り返り】

2人技を音楽に合わせて初めて取り組んだ。仲間とタイミングを合わせて技を完成させることができた。

高等部 2 年体育科授業案

【本時の展開】(8/15 時間) 9月27日(水)

- (1) 本時のねらい
 これまでのダンスの動きを覚える。
 動きにメリハリをつけて、仲間を意識して移動する。
- (2) 研究との関連
 課題解決に向けて対話を行う。
 技カードで取り組む内容を確認し、言語合図で技を完成させるタイミングを意識する。
 活動内容を理解し見通しをもつ。
- (3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ジャンプ ○タッチ (ペアになる相手とハイタッチ) ○回転 (ペアになる相手と両手をつなぎ回転)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。
なか 20分	4 全体ダンス③ (手拍子→回転→2人技) ○ステージに向かってクラスごと横2列に並ぶ。 ○2人技の確認をする。 5 移動の練習 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> </div> 6 全体ダンス④ (手拍子→回転→2人技→移動) ○動画で行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・動作なし、言葉や写真カードを用いて確認する。 ・クラスメイトと一緒に移動することを意識する。 ・動きにメリハリをつけ、物を運ぶなど目的をもたせる。 ・移動は「1、2！」のかけ声で行い、「1、2！」が15回あることを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・動画を使い、スムーズに踊れるようにする。
まとめ 5分	7 本時のまとめと次時の確認 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。

【授業者による振り返り】

新たに「移動」を行った。体育館にラインテープを貼ったことで立ち位置が明確になり、移動先の目安となった。また、移動先にミニカラーコーンを置いたり、旗で仲間を誘導するなどの工夫もあり、全員が移動することができた。次は、リズムに合わせて移動することが課題である。

【研究の視点からの振り返り】

全体ダンスを行う前に、技表を見て仲間と取り組む技を相談する姿が見られた。技に取り組む前に「そーれ！」と言う声が大きくなってきた。

高等部 2 年体育科授業案

【本時の展開】(9/15 時間) 9 月 28 日 (木)

- (1) 本時のねらい
リズムに合わせて仲間と一緒に移動する。
3 人以上で対話をしながら活動に取り組み、技の完成を目指す。
- (2) 研究との関連
課題解決に向けて対話を行う。
技カードで取り組む内容を確認し、言語合図で技を完成させるタイミングを意識する。
活動内容を理解し見通しをもつ。
- (3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て
はじめ 5 分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ジャンプ ○タッチ (ペアになる相手とハイタッチ) ○回転 (ペアになる相手と両手をつなぎ回転)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。
なか 20 分	4 全体ダンス④ (手拍子→回転→2 人技→移動) ○ステージに向かってクラスごと横 2 列に並ぶ。 ○2 人技の確認をする。 ○全体ダンス④を踊る。 5 目指せ! ダンスマスター 3 人技 ○グループごとに活動を開始する。 ○言葉と笛の合図に合わせて取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・移動は「1、2!」のかけ声で行い、「1、2!」が 15 回あることを伝える。 ・技表から選び、完成したらシールを貼ることを伝える。
まとめ 5 分	6 本時のまとめと次時の確認 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。

【授業者による振り返り】

技に取り組む前に「2 人技!」「そーれ!」と言葉での掛け合いを入れ、対話することでさらに技に取り組む意識が芽生えた。3 人技では、仲間ともう一人の仲間が取り組める技はどれかを考えたり、欠席している生徒のことを考えて技を選んだり仲間を思いやる姿が見られた。技のカウントと 2 種類の技に取り組むことを次回は意識させたい。

【研究の視点からの振り返り】

初めて 3 人技に取り組んだ。2 人技とは違い、自分と相手ともう一人意識する必要がある、技の完成に向け、教師の指示が 2 人技に比べ必要になるケースが見られた。

高等部 2 年体育科授業案

【本時の展開】(10/15 時間) 9月28日(木)

- (1) 本時のねらい
3人以上で対話をしながら活動に取り組み、技の完成を目指す。
できた喜びを表現し、仲間と賞賛し合う。
- (2) 研究との関連
課題解決に向けて対話を行う。
技カードで取り組む内容を確認し、言語合図で技を完成させるタイミングを意識する。
活動内容を理解し見通しをもつ。
- (3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ジャンプ ○タッチ (ペアになる相手とハイタッチ) ○回転 (ペアになる相手と両手をつなぎ回転)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。
なか 50分	4 全体ダンス④ (手拍子→回転→2人技→移動) ○ステージに向かってクラスごと横2列に並ぶ。 ○2人技の確認をする。 ○全体ダンス④を踊る。 5 目指せ! ダンスマスター 3人技 6 目指せ! ダンスマスター 3人技 発表(クラスごと) ○お互いに見えるよう向きを変え、その場で行う。 —休憩(5分間)— 7 音楽に合わせて、手拍子から3人技まで通してダンス —休憩(5分間)— 8 7の映像確認	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や写真カードを用いて技を確認する。 ・この後、発表することを意識させ活動に取り組みさせる。 ・生徒の状況を把握する。 ・混乱しないように、絵カードなどで次の内容を提示する。 ・生徒の状況を把握する。 ・タブレットに全体ダンス④を映し、活動を確認する。
まとめ 5分	9 本時のまとめと次時の確認 ○本日のベストダンサーの紹介 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。

【授業者による振り返り】

「せーの!」「はい!」が定着し、教師が「せーの!」と伝えると「はい!」と声を出して技を決める姿が見られた。クラスごとに練習した技を皆の前で発表することができ、賞賛をたくさん得ることができた。最後に音楽に合わせて取り組んだときもタイミングに合わせて技を完成させ、友達と一緒に踊ることができていた。

【研究の視点からの振り返り】

活動にも慣れ、仲間ができそうな技を選んだり、仲間へ技表を提示して選ばせたりする姿が見られた。課題解決に向け、主体的な学びに向かう姿が見られた。

高等部 2 年体育科授業案

【本時の展開】(11/15 時間) 10 月 2 日 (月)

- (1) 本時のねらい
3 人技を 2 回続けて取り組むことを意識して、2 種類の 3 人技に取り組む。
- (2) 研究との関連
課題解決に向けて対話を行う。
技カードで取り組む内容を確認し、言語合図で技を完成させるタイミングを意識する。
活動内容を理解し見通しをもつ。

(3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て
はじめ 5 分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ジャンプ ○タッチ (ペアになる相手とハイタッチ) ○回転 (ペアになる相手と両手をつなぎ回転)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。 ・お互いの調子を確認することを意識させる。 ・回しすぎて転倒しないように注意させる。
なか 20 分	4 全体ダンス④ (手拍子→回転→2 人技→移動) ○ステージに向かってクラスごと横 2 列に並ぶ。 ○2 人技の確認をする。 ○全体ダンス④を踊る。 5 目指せ！ダンスマスター 3～4 人技 ○グループごとに活動を開始する。 ○笛の合図に合わせて取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や写真カードを用いて確認させる。 ・教師が 3 名前に出て手本を見せる。技が完成したら「せーの、はい！」のかけ声で正面を向くことを伝える。 ・技表から選び、完成したらシールを貼ることを伝える。 ・全体ダンスを意識して、2 種類の技に挑戦させる。
まとめ 5 分	6 本時のまとめと次時の確認 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。

【授業者による振り返り】

3 人技を 2 回、2 種類完成させることを目標に取り組んだ。カードを見て技に取り組む流れはかなり定着した様子で、技ができると仲間と抱き合ったり、ハイタッチをしたりと喜びを分かち合う姿が見られた。拍手から 3 人技までの流れも繰り返す事で、定着してきた。今回は、3 人技の後の円になる活動を分かりやすく提示して取り組みたい。

【研究の視点からの振り返り】

3 人技を全体ダンスで音楽に合わせて完成させることができ、自分から技に取り組む姿が見られた。

高等部 2 年体育科授業案

【本時の展開】(12/15 時間) 10 月 3 日 (火)

- (1) 本時のねらい
3 人技の後のダンスに取り組む。
- (2) 研究との関連
課題解決に向けて対話を行う。
技カードで取り組む内容を確認し、言語合図で技を完成させるタイミングを意識する。
活動内容を理解し見通しをもつ。

(3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て
はじめ 5 分	<ol style="list-style-type: none"> 1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 <ul style="list-style-type: none"> ○ジャンプ ○タッチ (ペアになる相手とハイタッチ) ○回転 (ペアになる相手と両手をつなぎ回転) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。 ・お互いの調子を確認することを意識させる。 ・回しすぎて転倒しないように注意する。
なか 20 分	<ol style="list-style-type: none"> 4 全体ダンス⑤(手拍子→回転→2 人技→移動→3 人技) ○ステージに向かってクラスごと横 2 列に並ぶ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> </div> 5 手をつないで円になる→手をつないでばんざい→手拍子 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○最後のグーパーで C 組 A 組はしゃがむ、膝立ちでステージを向く。 6 全体ダンス⑥(手拍子→回転→2 人技→移動→3 人技→円になる→手拍子) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や写真カードを用いて技を確認させる。 ・移動の後に、3 人技を写真カードで確認させる。 ・教師が 1 回手本を見せる。 ・最後のグーパーで周りにぶつからないよう注意させる。
まとめ 5 分	<ol style="list-style-type: none"> 7 本時のまとめと次時の確認 <ul style="list-style-type: none"> ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。

【授業者による振り返り】

3 人技の後の動きを行い、最初から最後まで音楽に合わせて通してダンスを踊ることができた。最後まで踊りきることができ、拍手をしたり、飛び跳ねたりし達成感を味わっている様子だった。今まで練習した成果が発揮された。

【研究の視点からの振り返り】

取り組みたい技を自分達で決め、音楽に合わせて最後まで踊ることができた。自分達が主体となりダンスを踊る姿が見られた。

高等部 2 年体育科授業案

【本時の展開】(13/15 時間) 10 月 4 日 (水)

- (1) 本時のねらい
全体ダンスとエンディングを踊り、ダンスの流れを知る。
- (2) 研究との関連
課題解決に向けて対話を行う。
技カードで取り組む内容を確認し、言語合図で技を完成させるタイミングを意識する。
活動内容を理解し見通しをもつ。
- (3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て (必要物)
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ジャンプ ○タッチ (ペアになる相手とハイタッチ) ○回転 (ペアになる相手と両手をつなぎ回転)	<ul style="list-style-type: none"> ・ピブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。 ・お互いの調子を確認することを意識させる。 ・回しすぎて転倒しないように注意する。
なか 20分	4 全体ダンス⑥ (手拍子→回転→2人技→移動→3人技→円になる→手拍子) ○ステージに向かってクラスごと横2列に並ぶ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> </div> 5 エンディング ○全体ダンス終了後、A組は決めポーズの位置に移動する。B～D組は壁に寄り、ステージに向かって縦1列で整列する。A組→B組→C組→D組の順で決めポーズを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や写真カードを用いて確認させる。 ・移動した後の余った時間は、写真カードで次に行う3人技の提示をして確認させる。 ・線の上に3人技と同様にクラスごと横2列に整列させる。
まとめ 5分	6 本時のまとめと次時の確認 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。

【授業者による振り返り】

全体ダンスの流れが定着し、活動の内容を理解している様子で、タイミングに合わせてそれぞれの技に取り組むことができていた。また、決めポーズも自信をもって自分のポーズを作っていた。

【研究の視点からの振り返り】

全体ダンスでは、教師の指示を減らしても変わらず取り組むことができ、生徒が主体となってダンスに取り組めた。

高等部 2 年体育科授業案

【本時の展開】(14/15 時間) 10 月 5 日 (木)

- (1) 本時のねらい
最初から最後までの流れを確認する。
- (2) 研究との関連
課題解決に向けて対話を行う。
技カードで取り組む内容を確認し、言語合図で技を完成させるタイミングを意識する。
活動内容を理解し見通しをもつ。

(3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て
はじめ 5 分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ジャンプ ○タッチ (ペアになる相手とハイタッチ) ○回転 (ペアになる相手と両手をつなぎ回転)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。 ・お互いの調子を確認することを意識させる。 ・回しすぎて転倒しないように注意する。
なか 20 分	4 全体ダンス⑦(手拍子→回転→2人技→移動→3人技→円になる→手拍子→エンディング)を2回踊る。 ○ステージに向かってクラスごと横2列に並ぶ。 ○2人技の確認をする。 ○3人技の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や写真カードを用いて技を確認させる。
まとめ 5 分	5 本時のまとめと次時の確認 ○本時のまとめ。 ○次時からの内容を確認する。 ○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。

【授業者による振り返り】

3人技から円になる流れが、繰り返し行うことでスムーズになってきた。午後の授業に向け、流れの確認をメインで行った。2人技、3人技では自分が行う技が定着し、周りの生徒と協力したりスムーズに活動に移ったりする姿が見られた。

【研究の視点からの振り返り】

ほぼ全ての生徒が全体ダンスに参加することができ、技を完成さようと仲間を促して技に取り掛かったり、仲間をサポートする姿が多く見られた。

高等部2年体育科授業案

【本時の展開】(15/15時間) 10月5日(木)

- (1) 本時のねらい
決めポーズの姿勢を2秒間保つ。
動きを連続させ、最後まで踊る。
- (2) 研究との関連
課題解決に向けて対話を行う。
技カードで取り組む内容を確認し、言語合図で技を完成させるタイミングを意識する。
活動内容を理解し見通しをもつ。
- (3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立て
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ジャンプ ○タッチ(ペアになる相手とハイタッチ) ○回転(ペアになる相手と両手をつなぎ回転)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブスをつけて集合させる。 ・生徒の出席確認、健康観察を行う。 ・活動の見通しがもてるように単元の活動内容表を大型テレビに提示する。 ・ぶつからないように間隔を広げてから行う。 ・お互いの調子を確認することを意識させる。 ・回しすぎて転倒しないように注意する。
なか 50分	4 全体ダンス⑥(手拍子→回転→2人技→移動→3人技→円になる→手拍子) 5 決めポーズの練習 ○かけ声の確認をする。 ○個人の決めポーズを確認する。 ○ポーズを保つ練習を行う。 ○クラス全員でタイミングを合わせる練習を行う。 ○クラスごと発表する。 —休憩(5分間)— 6 エンディングの練習 7 全体ダンス⑦(手拍子→回転→2人技→移動→3人技→円になる→手拍子→エンディング) 8 7の映像確認	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や写真カードを用いて確認させる。 ・かけ声を「～組の決めポーズ！1、2、オッケー！！」とする。 ・生徒の状況を確認する。 ・「円になる」ところから行わせる。 ・タブレットに全体ダンス⑦を映し、活動を確認させる。
まとめ 5分	9 本時のまとめと次時の確認 ○本時のまとめ。 ○感想発表。 ○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行う。

【授業者による振り返り】

決めポーズの後に、「1、2、オッケー！」と言葉を決めて、動きに合わせて取り組んだことが分かりやすかったようで、多くの生徒がポーズをキープすることができた。

【研究の視点からの振り返り】

自分達ができる技や友達とできそうな技を選び、練習した技を音楽に合わせて全員で最後まで踊る姿が見られた。自分から技に取り掛かったり、仲間をサポートするなど仲間を気に掛ける姿が見られ、自分達が主体となり仲間とダンスを完成させる意識が芽生えた。

5 検証授業の結果と考察

研究主題に迫るために、検証から得たデータを基に、[第3章] (7)「分析の視点と方法」に沿って検証していくこととする。

(1) 対話的な学びを促すことができたか

多田は、言葉による対話だけでなく、感覚の交流、無言の意思の伝達も有効な「対話」と捉えている、他者と伝え合い、通じ合い、響き合うことは、言葉のみでなく、いかなる方法であっても「対話」とする、と述べている。⁷⁾そこで、本研究では言葉による対話、感覚の交流、無言の意思の伝達を対話(表1)と見取ることとした。

表1 対話の定義⁷⁾(再掲)

言葉	感覚の交流	無言の意思の伝達
----	-------	----------

ア 技表(表4)、技カード(表5)が、仲間と対話を行う手立てとして有効であったか

図2は「目指せ!ダンスマスター」で、2人技、3人技に取り組んだ10分間における、自分の取り組みたい技を相手に伝えた生徒、相手の取り組みたい技を受け入れた生徒の数を映像分析及び、教員が記入した見取り表(資料編P.20~P.23)を基にその人数の割合を示したものである。

4、5、6、9、10、11時間目では、生徒自ら技表、技カードから取り組みたい技を選び、言葉やカードを提示したり指差しをして相手に伝え、技に取り組んだ。21%~30%の生徒が言葉や、カードを指差し、相手に自分の気持ちを伝えることができた。61%~70%の生徒が仲間から提案された技に取り組むことができ、相手の取り組みたい技を受け入れることができた。3%~15%の生徒が取り組みたい技を伝えることと、相手の提案された技を受け入れる両方を行うことができた。3%~6%の生徒が参加できなかった。

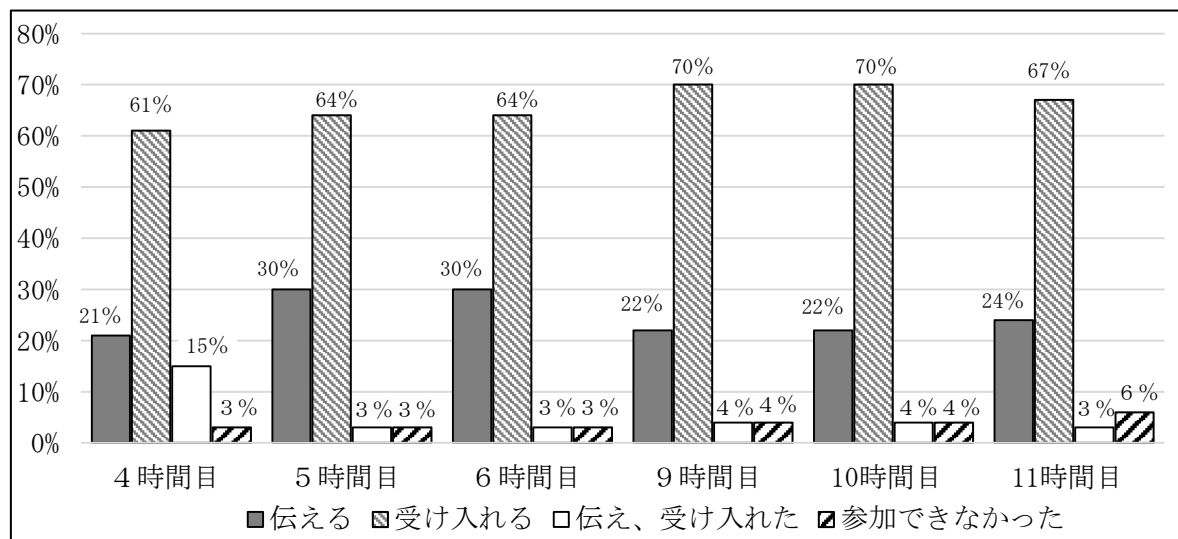


図2 「目指せ!ダンスマスター (10分間)」で自分の取り組みたい技を相手に伝えた、相手の取り組みたい技を受け入れた生徒の数

図3は「目指せ！ダンスマスター」で、2人技、3人技に取り組んだ10分間における、技に取り組んだ生徒の数を映像分析し割合で示したものである。4、5、6、9、10、11時間目では、94%～97%の生徒が技表、技カードを基に仲間と取り組むことができた。

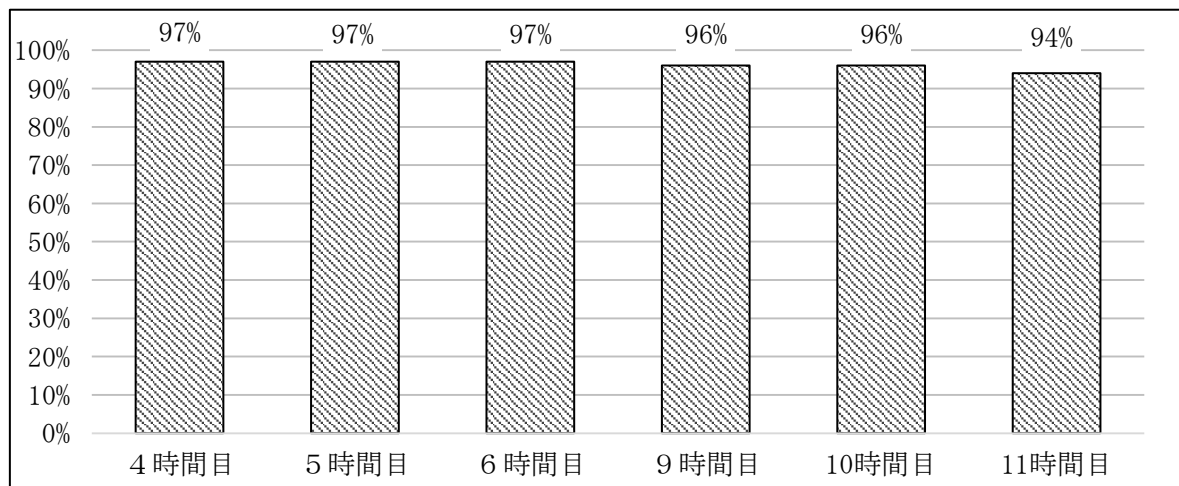


図3 「目指せ！ダンスマスター（10分間）」で技に取り組んだ生徒の割合

イ 課題解決に向けて仲間と対話できたか

図4、表8、図5、表9は1クラス（8名）を抽出し、対話の回数について映像分析し結果を示したものである。抽出理由は、生徒に対する事前アンケートで「ダンスの授業は好きですか？」の質問に対して「好きではない」という回答をした生徒が含まれていること、また、障害程度の人数が比較的均等であることからこの1クラスを抽出した。

図4、表8は「目指せ！ダンスマスター」で、2人技に取り組んだ10分間における対話数（言葉、感覚の交流、無言の意思の伝達の合計数）、技に取り掛かるために「せーの」とかけ声を発した回数、技に取り組んだ回数を映像分析し、その平均を示したものである。4、5、6時間目では、言葉の対話数、感覚の交流による対話数、「せーの」とかけ声を発した回数、技に取り組んだ回数は、4時間目から6時間目にかけて数が増えていった。無言の意思の伝達の対話数は4時間目から6時間目にかけて数が減っていった。

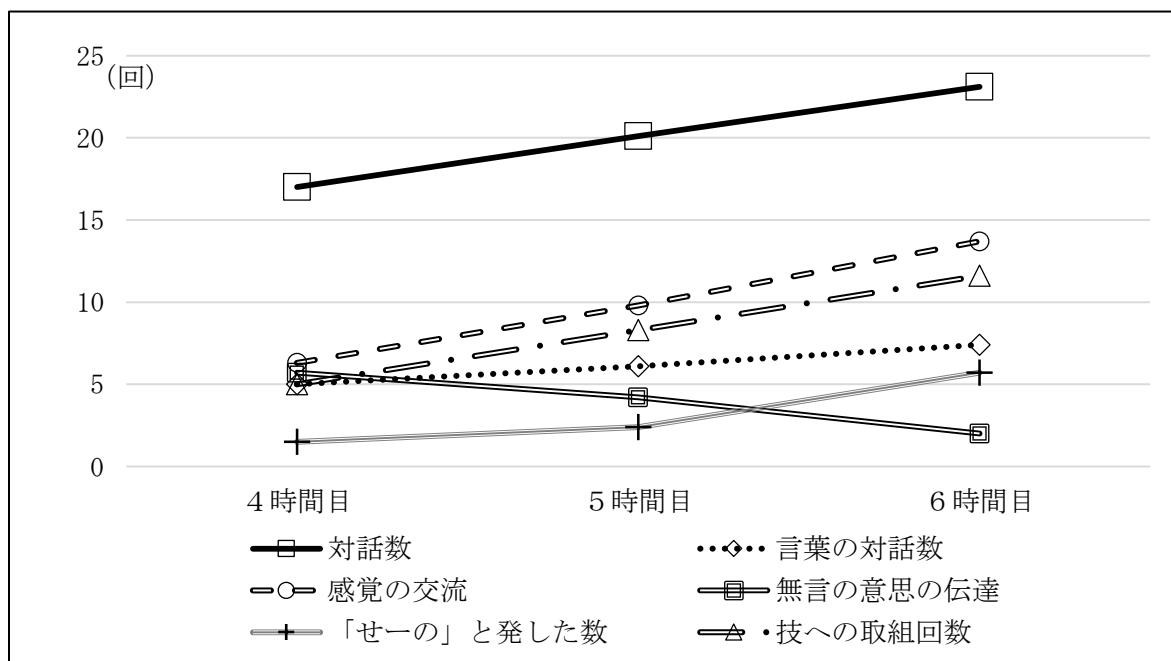


図4 「目指せ！ダンスマスター（10分間）」で2人技に取り組んだ対話などの変化

表8 「目指せ！ダンスマスター（10分間）」で2人技に取り組んだ対話などの平均回数

生徒	時間	4時間目	5時間目	6時間目
対話数		17回	20.1回	23回
言葉の対話数		5回	6.1回	7.4回
感覚の交流の対話数		6.3回	9.8回	13.7回
無言の意思の伝達の対話数		5.7回	4.2回	2回
「せーの」と発した数		1.5回	2.4回	5.7回
技への取組回数		5回	8.3回	11.6回

図5、表9は「目指せ！ダンスマスター」で、3人技に取り組んだ10分間における対話数（言葉、感覚の交流、無言の意思の伝達の合計数）、技に取り掛かるために「せーの」とかけ声を発した回数、技に取り組んだ回数を映像分析し、その平均を示したものである。9、10、11時間目では、対話数、言葉の対話数、感覚の交流による対話数、無言の意思の伝達の対話数は、9時間目に比べ10時間目は増え、10時間目に比べ11時間目は減った。「せーの」とかけ声を発した回数は、9、10時間目に比べ11時間目は増えた。技に取り組んだ回数は10時間目から11時間目にかけて数が減っていった。

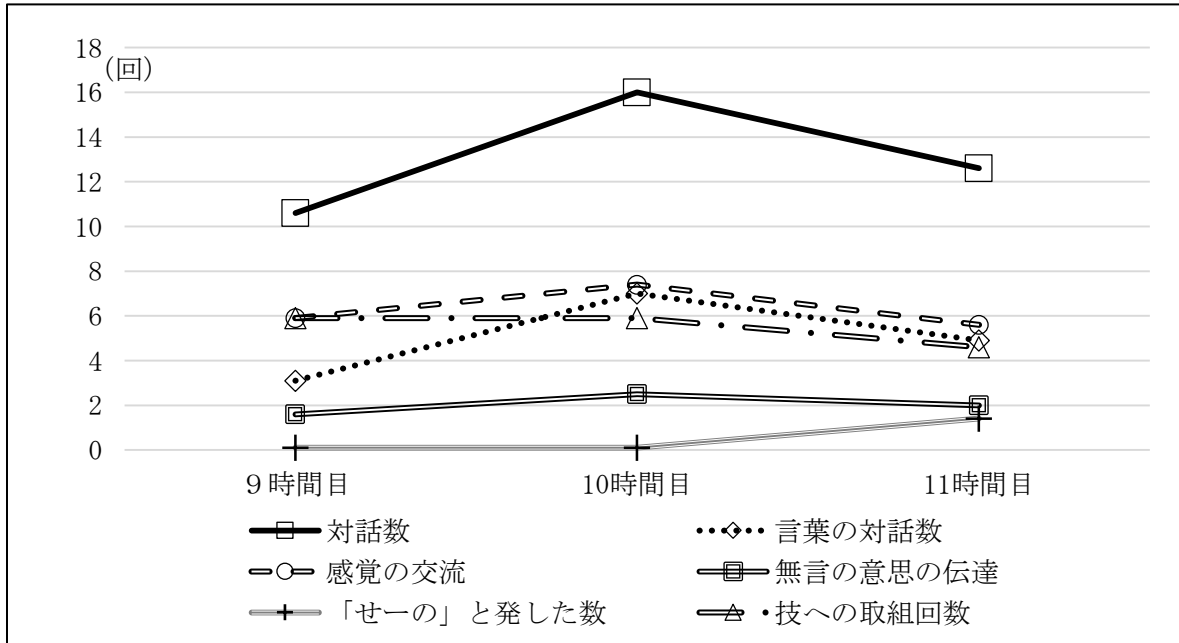


図5 「目指せ！ダンスマスター（10分間）」で3人技に取り組んだ対話などの変化

表9 「目指せ！ダンスマスター（10分間）」で3人技に取り組んだ対話などの平均回数

生徒	時間	9時間目	10時間目	11時間目
対話数		10.6回	16回	12.6回
言葉の対話数		3.1回	7回	4.9回
感覚の交流の対話数		5.9回	7.4回	5.6回
無言の意思の伝達の対話数		1.6回	2.5回	2回
「せーの」と発した数		0.1回	0.1回	1.4回
技への取組回数		5.9回	5.9回	4.6回

<考察>

(1) 対話的な学びを促すことができたか

ア 技表、技カードが、仲間と対話を行う手立てとして有効であったか

「目指せ！ダンスマスター」では、図2の結果から、94%以上の生徒が毎時間技表、技カードを使って対話をすることができたと言える。また、図3の結果からは、毎時間94%以上の生徒が技に取り組んでいたことが分かる。これは、技表、技カードによって課題が視覚的に示されたことで、課題を理解し仲間と共有でき、技を完成するという課題に向けた対話的な学びが促されたと考えられる。これらのことから、技表、技カードは仲間と対話を行う手立てとして有効であったと考えられる。

イ 課題解決に向けて仲間と対話ができただか

「目指せ！ダンスマスター」の2人技では、図4、表8の結果から、4時間目から6時間目にかけて対話数が増え、技に取り組む回数も増えたと言える。

この2人技では、仲間とタイミングに合わせて技を完成させるための「せーの」というかけ声や、修正点を伝えるなどの言葉の対話により技を完成させるタイミングが合い、技の完成の仕方が分かってくると、技に取り組む回数が増えるとともに感覚の交流の対話数が増えていった。技の取り組み方がスムーズになってくると技を選んで決めたり、手順や役割を確認したりする必要がなくなるため、無言の意思の伝達の対話数が減っていったと考えられる。

「目指せ！ダンスマスター」の3人技では、図5、表9の結果から、9時間目に比べ10時間目の対話数が増えたことが分かる。増えた理由は、取り組みたい技をお互いに選び相談したり、仲間と一緒に取り組める技を教員や仲間と選び、課題解決するための言葉をかけるタイミングや言葉のかけ方について相談する姿が見られたからと考えられる。一方、10時間目に比べ11時間目の対話数が減った。また、3人技は2人技に比べ、対話数、技への取り組み回数が減った。減った理由は、3人技は生徒がそれぞれ異なった動きをすることとなり、タイミングが合わせづらく、2人技に比べ技を完成させることが難しくなったためと考えられる。しかし、3人技でも「せーの」というかけ声は増え、仲間と気持ちを合わせて技を完成させようとしていた。

課題解決に向けて仲間と対話をして技に取り組めたことから、対話的な学びを促すことができたと考えられる。

(2) 主体的な学びに向かう姿が生まれたか

竹林地は「主体的な学習をしている児童生徒の姿」として「考えている（迷っている）」「判断している（決めている）」「行動している」がある、と述べている。⁸⁾そこで本研究では、主体的な学びに向かう姿を、「考えている姿（迷っている姿）」「判断している姿（決めている姿）」「行動している姿」と定義付けることとする。（表2）

表2 主体的な学びに向かう姿⁸⁾（再掲）

考えている姿 (迷っている姿)	判断している姿 (決めている姿)	行動している姿
--------------------	---------------------	---------

ア 考えている姿、判断している姿、行動している姿が生まれたか

「せーの」のかけ声が増えたということは、何をするのかを理解し、どうすれば仲間と技を完成させられるかを考え、判断し、行動した姿であり、その姿は主体的な学びに向かう姿であると考えられる。そこで、対話する姿が主体的な学びに向かう姿として考えることができることから図4、図5から「せーの」と発した数と技への取組回数のみを図6、図7として再掲した。

図6、表10は、「目指せ！ダンスマスター」で、2人技に取り組んだ10分間における、技に取り掛かるために「せーの」とかけ声を発した回数、技に取り組んだ回数を映像分析し、その平均を示したものである。4、5、6時間目では、「せーの」とかけ声を発した回数、技に取り組んだ回数は、4時間目から6時間目にかけて数が増えていった。

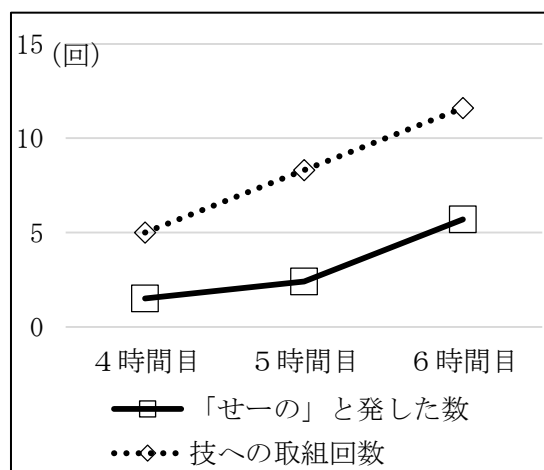


図6「目指せ！ダンスマスター（10分間）」で2人技に取り組んだ、かけ声と取組の変化

表10 「目指せ！ダンスマスター（10分間）」で2人技に取り組んだかけ声と取組の平均回数

生徒	時間	4時間目	5時間目	6時間目
	「せーの」と発した数	1.5回	2.4回	5.7回
	技への取組回数	5回	8.3回	11.6回

図7、表11は「目指せ！ダンスマスター」で、3人技に取り組んだ10分間における、技に取り掛かるために「せーの」とかけ声を発した回数、技に取り組んだ回数を映像分析し、その平均を示したものである。「せーの」とかけ声を発した回数は、9、10時間目に比べ11時間目は増えた。技に取り組んだ回数は、9、10時間目に比べ11時間目は減った。

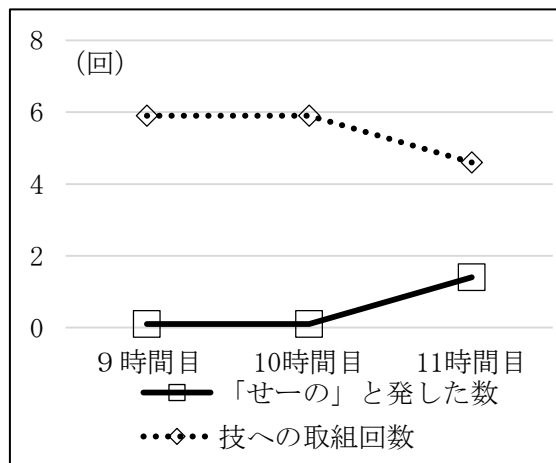


図7「目指せ！ダンスマスター（10分間）」で3人技に取り組んだ、かけ声と取組の変化

表11「目指せ！ダンスマスター（10分間）」で3人技に取り組んだ、かけ声と取組の平均回数

生徒 \ 時間	9時間目	10時間目	11時間目
「せーの」と発した数	0.1回	0.1回	1.4回
技への取組回数	5.9回	5.9回	4.6回

図8は全体ダンスで教員から身体的支援（手を握る、腕を持ち上げるなど直接体に触れる支援）を受けずに技に取り組んだ生徒の割合を映像分析し示したものである。6時間目～15時間目では、64%～80%の生徒が生徒達だけで技を完成させることができた。

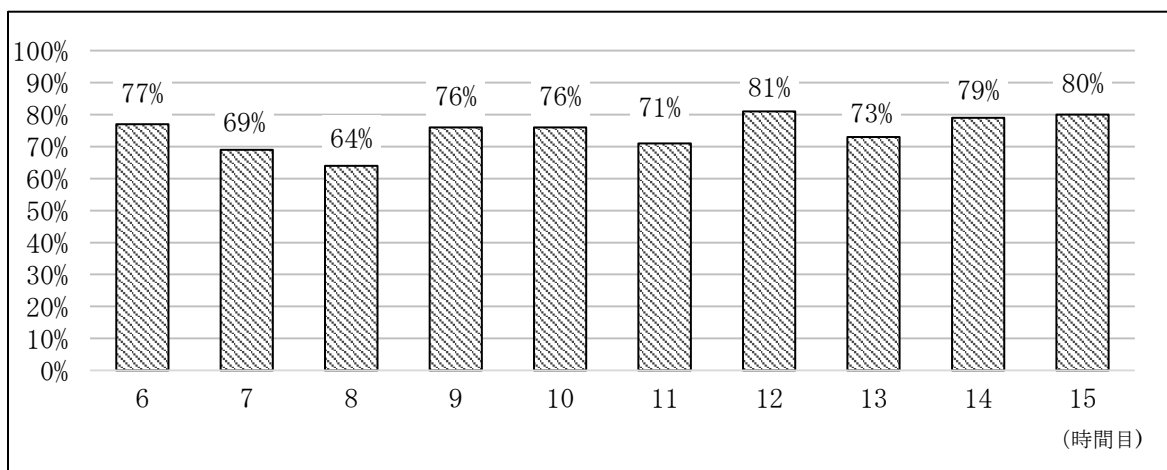


図8 全体ダンスで教員から身体的支援を受けずに技に取り組んだ生徒の割合

図9は全体ダンスで仲間に技の取り組み方を促したり、移動する時に仲間をリードした生徒の割合を映像分析し示したものである。6時間目～15時間目では、授業が進むにつれ徐々に割合が増え、14、15時間目では40%に達した。

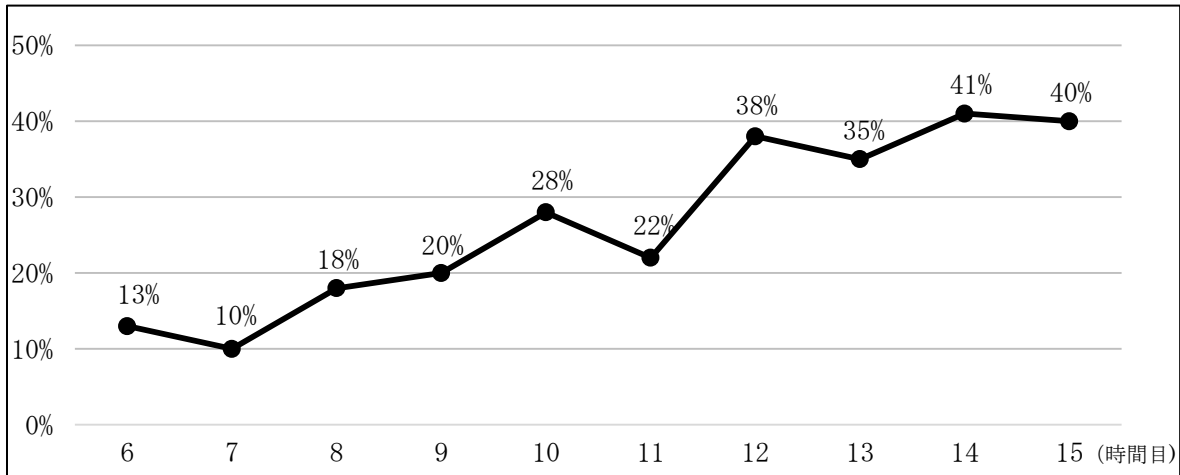


図9 全体ダンスで仲間に技の取り組み方を促したり、仲間をリードした生徒の割合

<考察>

(2) 主体的な学びに向かう姿が生まれたか

ア 考えている姿、判断している姿、行動している姿が生まれたか

2人技では、図6、表10の結果から、技に取り組むときに仲間とタイミングを合わせるために「せーの」のかけ声を発した生徒が増え、生徒同士で取り組む回数が増えたことが分かる。3人技では、図7、表11の結果から、3人技に取り組んだ回数は11時間目に減ってしまったことが分かる。減った理由として3人技に取り組み始めた9時間目、10時間目は「せーの」のかけ声は教員によるものが多く、生徒は技に取り組むことで精一杯であったからではないかと考えられる。しかし、11時間目には生徒の「せーの」のかけ声が増え、そのかけ声によって3人技に取り組むことができた。全体ダンスでは、図8の結果から、64%～80%の生徒が生徒達だけで技を完成させることができ、図9の結果から、仲間に技の取り組み方を促したり、仲間をリードした生徒が14、15時間目では40%いたことが分かる。授業が進むにつれ仲間を気に掛けるようになった。

「せーの」のかけ声が増えたということは、何をするのかを理解し、どうすれば仲間と技を完成させられるかを考え、判断し、行動した姿であり、その姿は主体的な学びに向かう姿であると考えられる。そして、技の完成に向けて積極的に何度も挑戦したと考えられる。

全体ダンスでは、仲間を促して技に取り掛かったり、移動をサポートするなど仲間を気に掛ける姿が見られた。仲間を気に掛ける姿は、仲間と技を完成させるために考え、判断し、行動した姿であり、自分達が主体となり仲間とダンスを完成させる意識が芽生えたと考えられる。

これらのことから、主体的な学びに向かう姿が生まれたと考えられる。

第4章 研究のまとめ

1 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

本研究は、ダンスの作品創りにおいて、仲間と取り組む共通課題を設定し、課題解決に向けた対話的な学びを促すことによって、主体的な学びに向かう姿が生まれる授業を提案することを目的に研究を進めてきた。研究の成果として次のことが明らかになった。

仲間と取り組む2人技、3人技等の明確で生徒の実態にあった適切な共通課題を設定することで、課題解決に向けた言葉、感覚の交流、無言の意思の伝達による対話的な学びを促す行うことができた。そして、仲間とタイミングを合わせようと自分から「せーの」と声をかけられるようになり、技を完成させようと積極的に取り組む意欲が増え、対話する姿が主体的な学びに向かう姿として捉えることができた。また、全体ダンスでは、仲間を促して技に取り掛かったり、移動をサポートするなど仲間と技を完成させるために考え、判断し、行動するという仲間を気に掛ける姿が見られ、主体的な学びに向かう姿が生まれた。

以上のことから、仲間と取り組む共通課題を設定し、課題解決に向けた対話的な学びを促すことによって、主体的な学びに向かう姿が生まれたと考えられる。

(2) 研究の課題

今回の研究を行う中で、生徒から「仲間とできる新しい技を考えたい」という意見が出た。

ダンスの授業で生徒自ら仲間と協力して技に取り組むことは初めてのことであったため、決めた技を共通課題として設定したが、次年度は生徒に取り組みたい技を提案させたり、生徒のかけ声に合わせて全員で技を完成させるなど、より生徒が主体となって活動に取り組む授業を検討していきたい。また、3人技は生徒達だけで技を完成させることが難しく、教員の支援が増えたことから、今後は取り組む人数が増えても生徒がより主体的な学びとなる課題を検討し設定したい。

2 今後の展望

今回の検証授業を通して、自分自身が改めて学んだことは、個々の生徒の実態を把握し、実態に見合った運動課題を設定することの大切さであり、運動課題を設定する際には、生徒が「確実にできる」「頑張ればできる」課題を用意することが重要ということである。このような課題は生徒にとって、見通しをもちやすく取り組みやすいこと、やれば「できる」という成功経験を味わえることから、運動学習を主体的に繰り返すことにつながると考えられる。また、仲間との関わり方が分からなかった生徒が、共通課題を設定されることで仲間と適切な関わりをもてるようになったり、教室で友達と関わるのが少なかった生徒が、課題を解決しようと友達と関わろうとする姿が見られた。その後、学校生活での仲間との関わりが円滑になり、体育の授業での学びは、授業以外での生活の場でも活かされるものであると感じた。そして、勝敗やルールの理解が難しく、主体的に活動に取り組むことが困難であった生徒が自分で考え、判断し、行動している姿が見られ、ダンスの授業は生徒にとって楽しみながら、身体能力やコミュニケーション能力を育成できるものであると確信した。今後も生徒が主体となって、生涯にわたって豊かなスポーツライフを形成し、多くの人と関わりがもてるような体育の授業を目指していきたい。

最後になりましたが、本研究を行うに当たって、大変お忙しい中、検証授業に多くの協力をいただいた鶴見養護学校の藤本校長先生をはじめ、高等部2学年、他学年、その他の教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

また、専門的な見地から様々な指導や助言をいただいた、神奈川県立総合教育センター特別支援教育推進課、神奈川県立体育センターの皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献・参考文献

- 1) 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編等（高等部）」文部科学省、平成21年12月
- 2) 矢部京之助 草野勝彦 中田英雄 「アダプテッドスポーツの科学：障害者・高齢者のスポーツ実践のための理論」 市村出版 2004年10月
- 3) 大橋さつき 「特別支援教育・体育に活かすダンスムーブメント」明治図書
- 4) 澤江幸則 「発達障害のある子の特性と授業で求められる配慮点」『楽しい体育の授業』 pp35-37 明治図書 2016年3月
- 5) 丸山真司 「近未来の体育を展望する」『体育科教育』 pp21 大修館書店 2017年4月
- 6) 田村学 「『対話的な学び』とは何か？」『教職研修』 pp20-23 教育開発研究所 2016年9月
- 7) 多田孝志 「授業で育てる対話力」教育出版 2011年8月
- 8) 竹林地毅 「自らの学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』を特別支援教育で実現するには」『特別支援教育の情報実践』 pp16 明治図書、2016年8/9月